

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.201

2019年3月29日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

「おおくのしまのお話～もうひとつの広島～」

平和教育部会

2019年3月、芦屋市の中学校で、平和教育部会の授業研究会をおこないました。2年生を対象に、社会科（歴史的分野）での1単元【単元名「おおくのしまのお話～もうひとつの広島～（近代の日本）」としてとりました。「大久野島の毒ガス製造の記憶と戦後に残る問題を知る」「戦争の『被害』と『加害』について、体験者の苦悩を通して考える」を単元目標としました。

教員の「広島といえば？」の問いに、小学校の修学旅行で広島を訪れた生徒もいたので、「原爆ドーム」など



原爆による被害がすぐに返って来ました。その後、今はウサギ島として有名になっている大久野島の様子と位置がスライドで示されました。1938年と1973年の地図資料を比べる事で、大久野島が地図から消されている事実が見えます。「なぜ地図から消されたと思う？」という問いに、生徒たちはグループで話しながら、「秘密にしたかったからかな」という声が聞こえました。秘密にしたかった理由が、毒ガス製造であることをイラストや写真で提示され、「毒ガス製造にかかわった人はどんな人だったでしょうか？」の問いに、「強制連行された人」という答えもありましたが、当時製造していた女子生徒の写真が提示されると一瞬息をのむ生徒もいました。自分たちと同じ世代の人が戦争に加担したばかりでなく、健康被害にあったという事実を告げられ、驚いている生徒もいました。

戦後、健康被害により毒ガス製造の被害者だと思い込んでいた藤本安馬さんは、中国で毒ガス兵器が使われ、被害を受けた人たちの存在を知ります。被害者と思いこんでいた自分が、中国では加害者であったことを知り、謝罪のために中国へ行ったことが紹介されました。教員から「藤本さんに謝罪された中国の人は、どうしたのでしょうか？」という問いがありました。生徒たちからは「なんてことをしてくれたんや」「今さらなんや」とか、「謝ってくれてありがとう」と言ったのではないかと、という発言がありました。しかし、「日本人は憎いと思っていたが、謝罪に来てくれる日本人がいることを知りました。これからはともに平和な世界を実現しましょう」という、親や兄弟を毒ガスで失った方の言葉が紹介されました。環境省のHPには、現在も毒ガスを廃棄した場所に関する情報があります。阪神間にも毒ガス情報を示す印があり、毒ガス問題は終わっていないということも示されました。一人ひとりが教員の問いと事実の提示に真剣に向き合い、受け止めている姿がありました。

事後の話し合いでは、授業者から「スライドを使った資料は視覚に訴えることができたが、生徒の活動が少なかった」という話がありました。「資料は必要であったが、どれを選択するのが難しい」という意見もありました。生徒自身が疑問を持ち、必要な資料を選択して自主的に調べる授業をどう組み立てるか、アイデアを出し合いました。平和教育部会で研究を進め、夏におこなわれる教育課程編成講座で、ぜひ模擬授業をやってみようということになりました。一人でも多くの教員に使ってもらえる指導案の作成をめざしたいと思います。